

平成27年度第1回島根県公立大学法人評価委員会 議事要旨

1. 日時

平成27年7月16日(木) 13:30~15:20

2. 場所

島根県民会館 305会議室

3. 出席者

(委員)

服部委員長、宮脇委員、三島委員、渋川委員

(公立大学法人島根県立大学)

本田理事長、小池副理事長、小室事務局長、土井事務局次長、浅井財務課長、
錦織主任、槇野主任

(事務局)

田部総務部長、山崎総務課長、三島調整監、井上学事GL、向田主任

4. 議題等

- (1) 平成26年度公立大学法人島根県立大学業務実績報告について
- (2) 平成26年度公立大学法人島根県立大学業務実績評価について
- (3) 公立大学法人島根県立大学役員報酬規程の一部改正について

5. 会議の概要

(1) 平成26年度公立大学法人島根県立大学業務実績報告

公立大学法人島根県立大学の本田理事長から、実績報告書に基づき、平成26年度の公立大学法人島根県立大学の業務実績について説明が行われた。また、評価委員との間で質疑応答が行われた。

<本田理事長説明内容の概要>

- ・資料の重点項目について、各取組状況を説明。
- ・平成25年度指摘事項について、取組状況を説明。

<小池副理事長>

- ・26年度の財務運営状況について説明。

<質疑等概要>

- ・自ら考える力を見につける教育が必要と思うが、どのように取り組まれたか。
→例えば「フレッシュマン・フィールドセミナー」という地域に出かけて行って課題を解決する必修授業を実施し、現実社会で活用できる能力を高めている。

- ・成績が上位の学生を更に伸ばす工夫が必要だが、県大の教育はどうなっているか。
→大学もその認識はもっており、特に英語については上位層を更に伸ばす教育を実施している。こうした取り組みの結果、アメリカに留学して単位を取得できるレベルの学生も出てきている。
- ・看護師養成課程では、県内のリーダーとなるような人材を育てることが重要。このことには、今後どのように対応していくか。
→更なる高度人材養成のために28年4月から大学院を開設する予定。一人暮らしの高齢者の患者へのケアなど、地域から必要とされる人材の養成に努めていく。
- ・蔚山大学とのダブルディグリーはどのように実施しているか。
→学部2、3年次の2年間で実施しており、各学年2名ずつ派遣している。
- ・ダブルディグリーの取り組みは高く評価したい。
- ・研究費不正などのコンプライアンスの対策はどのようになっているか。
→規則や研究不正防止計画推進委員会を設けている。また、全教員を対象としたコンプライアンス研修にも取り組んでいる。
- ・年度計画項目になかったので、次年度では項目に入れた方がよい。
- ・コンプライアンス関連は、規程整備等よりも教職員の研修に重点を置いて取り組んでもらいたい。

(2) 平成26年度公立大学法人島根県立大学業務実績評価

公立大学法人島根県立大学から提出された業務実績報告書のうち5段階評価を行う項目について、事務局から説明が行われた。

(3) 役員報酬規程の改正

事務局から、役員の期末手当の支給率変更に係る説明がなされた。

<事務局説明に対する主な委員質疑・意見>

- ・No. 88 について、同窓会組織は、非常に重要。26年度において松江キャンパスで同窓会との連携が強化されたことを評価する。
- ・No. 87 について、大学案内のテレビコマーシャル行っている私立大学あるが、公立では珍しい。県立大学でそこまでの取り組みを行ったことは非常にインパクトが大きいため、高く評価する。